

## 稚内市におけるコウモリ類の分布 (2)

佐藤雅彦・佐藤里恵

〒 097-0401 北海道利尻郡利尻町杵形字栄浜 142 道北コウモリ研究センター

### Distribution of Bats in Wakkanai (2)

Masahiko Satô and Rie Sato

Research Center for Bats in Northern Hokkaido, 142, Sakaehama, Kutsugata, Rishiri Is., Hokkaido, 097-0401 Japan

**Abstract.** Bat research was carried out by the authors in central Wakkanai, particularly in Masuhoro and Koetoi area, between July and October, 2012. During this study two ussuriian tube-nosed bat individuals, *Murina ussuriensis*, were captured by mist nets at Kami-koetoi. Also a record for Japanese long-eared bat, *Plecotus sacrimontis*, at Kami-Masuhoro in 2007, was reported by H. Satou. The latter species is newly recorded from Wakkanai city, northern Hokkaido.

#### はじめに

筆者らは北海道北部におけるコウモリ相の調査を継続しており (佐藤ほか, 2011, 佐藤ほか, 2012, など), 稚内市については 2002 年に調査を実施し, ヒメホオヒゲコウモリ *Myotis ikonnikovi* およびコテングコウモリ *Murina ussuriensis* の捕獲と, 北海道稚内高等学校に保存されている 1962 年に捕獲されたというオヒキコウモリ *Tadarida insignis* の標本確認を行ったほか, 音声調査からはキタクビワコウモリ *Eptesicus nilssonii* の生息の可能性を指摘した (佐藤ほか, 2003). その後, 2011 年にヒナコウモリ *Vespertilio* 属の 1 種と思われる目撃例の報告があり (佐藤, 2012), 現在までに確実な生息の証拠が得られないオヒキコウモリを除き, 同地域には未同定種も含め 4 種のコウモリの生息があるものと考えている. しかし, 隣接する豊富町および猿払村では 7 種 (佐藤ほか, 2001, 佐藤ほか, 2006) のコウモリが確認されていることから, 稚内市においてもさらなるコウモリの生息が予想され, 2012 年に捕獲調査のほか, 聞き取り調査などを, 稚内市の増幌地区周辺を中心に実施し

た. その結果, 聞き取り調査から新たに 1 種の追加が得られたので, ここに報告する.

調査の実施にあたり, コウモリの捕獲許可については環境省 (環北地野許第 120507002 号) より許可をいただいたほか, 国有林内での調査については宗谷森林管理署に入林の便宜を図っていただいた. 調査では疋田英子さん (日本野鳥の会道北支部), 嶋崎暁啓さん (NPO 法人サロベツ・エコ・ネットワーク), 森永太一さん (〃) にお世話になったほか, 増幌地区の佐藤治義さんには貴重な目撃例や写真をいただいたほか, 市島家のみなさんには周辺地域での捕獲調査を快くご許可いただいた. Ronald L. Felzer 氏 (Merritt College) には英文校閲をお願いした. ここにお名前等を記して心からお礼を申し上げる. なお, 本稿の学名については Ohdachi *et al.* (2009) に基づいて表記を行った.

#### 調査期間, 調査地および調査方法

かすみ網を用いた捕獲調査は増幌および上声問地区の 3 か所において, 2012 年の 7 月 9 日, 9 月 15-16 日, 10 月 7 日に実施された. 調査により捕

表1. 捕獲調査日、場所および植生

年月日	場所	緯度経度 <sup>1)</sup>	主な植生 <sup>2)</sup>
2012.vii.9 2012.x.7	中増幌・ケナシポロ川	N45°21'44.3" E141°52'43.5"	オノエヤナギ*, ケヤマハンノキ, イタヤカエデ (胸高直径 60-70cm), オヒヨウ, クマイザサ*, オオイタドリ, オオハナウド, ハンゴンソウ, エゾイラクサ*, オドリコソウ, オオヨモギ, ウド, イヌタデ, コウゾリナ, ヨブスマソウ, アキタブキ.
2012.ix.15	上増幌・増幌川	N45°19'45.7" E141°52'46.2"	ヤナギ sp.*, ケヤマハンノキ, トドマツ, カラマツ, ナナカマド, クマイザサ*, オオヨモギ, オオイタドリ, オオバコ, シロネ sp., ゲンノショウコ, イヌタデ, エゾイラクサ.
2012.ix.16	上声間・北辰ダム	N45°18'54.6" E141°53'27.4"	ケヤマハンノキ*, イタヤカエデ, ヤナギ sp., クマイザサ*, オオヨモギ, エゾイラクサ, ハンゴンソウ.
		N45°18'43.9" E141°53'14.2"	ケヤマハンノキ*, ヤナギ sp., クマイザサ*, ヨツバヒヨドリ, カニコウモリ, ヨブスマソウ, オオイタドリ, スミレ sp..

1) 測地系 WGS84

2) \*は優占種.

獲されたコウモリは、同定・計測作業を行った後、すみやかに放獣された。また 25kHz の反応を持つコウモリの存在を調べるために、捕獲調査終了後、9月と10月については調査地から稚内市立増幌小中学校を経て、稚内空港付近の「空港公園前」バス停までの区間を車でゆっくりと走りながら、助手席においたバットディテクター（以下、BD）の反応を調べた。

## 結果

### 【捕獲調査】

かすみ網を用いた捕獲調査における調査日、場所・緯度経度、植生を表1に示す。捕獲されたコウモリはコテングコウモリ2個体で、北辰ダム以外の調査地の多くではBDの反応がほとんどなかった。各調査地での詳細は以下に記す。

#### 1. 中増幌・ケナシポロ川

ケナシポロ川に沿った道を農地から山地に入り、比較的大きなイタヤカエデなどが点在する広葉樹林である。林床にはクマイザサが密生し、小さな沢が暗渠を通して道路を横切り、ケナシポロ川に注ぐ。かすみ網は道をふさぐように2枚設置された。同じ場所で7月9日と10月7日の2回実施したが、BDの反応は全くなかった。7月の調査日の気温は14.8°C (20:00)、10月は7.1°C (17:25)であった。

#### 2. 上増幌・増幌川

国有林9林班付近で、オノエヤナギを主体とした針広混交林で、近くには増幌川が流れる。かすみ網は道をふさぐように2枚設置されたが、エゾシカの姿を見かけた他は、コウモリの捕獲、およびBDによる反応も全く得られなかった。調査中の気温は17.3°C (20:00)であった。

#### 3. 上声間・北辰ダム

北辰ダム周辺の国有林19林班の林道入口付近2か所で、どちらもケヤマハンノキとクマイザサが優占する広葉樹林である。北辰ダムに近い林道ではすぐ横を小さな沢が流れており、林道入口付近をふさぐようにかすみ網2枚が設置され、もう一か所の農地に近く、比較的広い林道の場所では道をふさぐように1枚のかすみ網が設置された。前者では18:30から20:30までの調査中、BDの反応が時々あったが、捕獲には至らなかった。一方、後者の場所ではBDの反応は少なかったものの、2個体のコテングコウモリが捕獲され、本調査では唯一の捕獲例となった。捕獲された個体はオス成獣およびメス成獣で、それぞれの前腕長および体重は、29.7mm、5.1g、30.2mm、5.9gであり、メス成獣については乳頭の発達など繁殖の痕跡を確認することはできなかった。調査中の気温は16.7°C (20:00)であった。

### 【聞き取り調査】

2007年に増幌地区でコウモリを保護した方がいるという情報があらかじめ得られていたため、疋田

英子さんを通じて得ることができた当時の資料とともに、発見者である佐藤治義さんを7月9日に訪ね、聞き取り調査を行った。増幌地区にある佐藤さんのご自宅は、農地に囲まれ、周辺には大きな農機具を入れる建物や倉庫、物置などが点在しているほか、自宅脇には小さな林も見られる場所である。佐藤治義さんの話によると、2007年10月5日に自宅に1匹のコウモリが迷い込んできたため、虫かごに保護し、稚内市立増幌小中学校に持って行ったということであった。学校からはコウモリを観察している児童の写真などが送られてきたとのことで、その後、コウモリは放獣されたと聞いているが、その詳細は不明だそうである。保護時に佐藤さんにより撮影された写真が残されており（図1）、特徴的な大きな耳介などからこの個体はウサギコウモリであることが明らかとなった。聞き取り調査後、佐藤さんの古い物置小屋の中を拝見させてもらったところ、コウモリのもと思われる糞が床板などにわずかに残されていたが、確実なコウモリの利用を示す痕跡などを見つけることはできなかった。

**【BDによる25kHzにおける反応調査】**

車輦で走行しながら、25kHzを中心としたBDの反応の有無をMini-3（Ultra Sound Advice社）を用いて調べたが、9・10月ともに反応を得ることはなかった。

**考察**

本調査によって稚内市におけるウサギコウモリの生息が新たに確認された。これによって未確認種も含め、少なくとも5種のコウモリが同市から記録されたことになった。

ウサギコウモリは北海道北部では森林内で捕獲さ



図1. 2007年に増幌地区で保護されたウサギコウモリ（撮影：佐藤治義さん）。

れるほか、廃線となったトンネル、学校などの建造物内で単独個体や、時に繁殖コロニーが確認されることがある（佐藤、未発表）。今回、捕獲による本種の確認はできなかったが、今後は民家に近い場所など、環境の異なる場所においても丹念に調査を実施していくことで、新たな確認が得られる可能性もあると思われる。

その一方、合計4日間の捕獲調査で1種2個体のコウモリのみが捕獲されたに過ぎず、BDの反応が増幌地区周辺ではほとんど得られなかったことから、利尻・豊富・猿払などの近隣の町村における状況と比較して、これらの地域におけるコウモリの生息密度や多様性が低いことが想像された。表2は、2011年における利尻島杓形、稚内市開運、稚内市声間、稚内市沼川の4か所の日平均気温、最高気温、最低気温を示し（気象庁、2012）、同じ道北地域でもそれぞれの地域間での差があることがわかる。海に近い地域では比較的気温が高く、寒暖の差も少ないが、沼川などの内陸では気温が低く、寒暖の差も大きい。増幌地区は、声間と沼川の中間の位置にあたる。このような気温の例のみならず、これら同じ

表2. 利尻島および稚内市における2011年の気温

	日平均気温（℃）	最高気温（℃）	最低気温（℃）
利尻（杓形）	7.6	28.3	-11.5
稚内（開運）	7.3	27.9	-11.4
稚内（声間）	6.4	29.0	-19.5
稚内（沼川）	5.6	29.2	-26.0

道北北部の隣接地域同士でも、地域の森林の発達の歴史、餌資源などの環境の差のほか、調査期間や方法の違いなどによっても各地のコウモリ相の解明・評価は大きく影響を受けるはずである。今後も丹念に調査を行い、地元における情報収集を積み重ねることで、各地域のコウモリ相のさらなる解明が進むとともに、北海道北部のコウモリの分布や生息状況の差がどのような要因によって影響されてきたのか解明されることに期待したい。

#### 参考文献

- 気象庁, 2012. 過去の気象データ検索. <http://www.data.jma.go.jp/obd/stats/etrn/index.php>, 2012年10月13日引用.
- 佐藤雅彦, 2002. 稚内と豊富におけるコテングコウモリの記録. 利尻研究, (21): 1-2.
- 佐藤雅彦, 2012. 稚内市におけるヒナコウモリ属の観察記録. 利尻研究, (31): 35-38.
- 佐藤雅彦・前田喜四雄・赤澤 泰, 2001. 豊富町と幌延町におけるコウモリ類の分布. 利尻研究, (20): 23-28.
- 佐藤雅彦・美土路建・疋田英子・前田喜四雄, 2003. 稚内市におけるコウモリ類の分布. 利尻研究, (22): 13-22.
- 佐藤雅彦・村山良子・前田喜四雄, 2006. 猿払村のコウモリ類の分布. 利尻研究, (25): 37-45.
- 佐藤雅彦・村山良子・佐藤里恵, 2012. 苫前町におけるコウモリ類の分布. 利尻研究, (31): 19-26.
- 佐藤雅彦・村山良子・出羽 寛・福井 大・佐藤里恵・清水省吾・村山美波・前田喜四雄, 2011. 音威子府村におけるコウモリ類の分布. 利尻研究, (30): 35-44.
- Ohdachi, S. D., Y. Ishibashi, M. A. Iwasa & T. Saitoh (eds.), 2009. The Wild Mammals of Japan. Shoukadoh Book Sellers and the Mammalogical Society of Japan. 544pp.